

平成 28 年度 第 2 回魚沼地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

と き：平成 28 年 7 月 21 日（木）午後 2 時から 4 時 20 分まで

と ころ：南魚沼市役所 2 階 大会議室

1. 参加者

魚沼地域共生ビジョン懇談会委員（以下、各市町五十音順）

○魚沼市

枝村和枝委員（欠席）、小林栄一委員、星麻衣副会長（欠席）、森山右文委員

○湯沢町

井熊充委員（欠席）、貝瀬健太副会長、高野理香委員（欠席）、高橋和成委員（欠席）

○南魚沼市

井上智明委員、川島亜紀子委員、関聡会長、樋口昌敏委員

各市町職員

●魚沼市

事務局：浅井企画政策室主任

●湯沢町

事務局：田村企画政策課企画係長

●南魚沼市

清水総務部部参事

事務局：片桐企画政策課長、宮崎企画主幹、中島行革主幹、半沢主事

2. 議事

【1】開会（進行：片桐企画政策課長）

【2】挨拶（関会長）

本日はご多忙の中、第 2 回共生ビジョン懇談会にご参集いただきありがとうございます。「南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議」、「南魚沼版 CCRC 推進協議会」にも出席させていただいているが、行政に対して民意を話す場は限られている。行政側もパブリックコメントなどを実施することで、民意を反映できるよう取り組んでいただいている。第 2 回の懇談会では、事務局案のビジョンに対して、皆さまからご意見をいただく形になるが、前回同様、「ここにはないが、こうしたらもっとよくなるのではないか」といった意見も是非お願いしたい。事実上、本日が最後の意見出しの場になると思うので、有意義な会議にしたい。

ー井上委員挨拶ー

【3】議事（進行：関会長）

(1) パブリックコメントの実施状況について〈事前資料〉（説明：半沢主事）

会長）ラジオ放送などで意見を促しても興味がないのか、そもそも定住自立圏と言われてピンとこないことも原因の一つであったと思う。南魚沼版 CCRC 構想が少しずつ市民に周知されてきたと感じる一方、定住自立圏の PR 方法を反省する部分もある。パブリックコメント件

数がゼロという結果だったので、民間の意見を吸い上げる場はこの共生ビジョン懇談会のみということになる。

(2) 定住自立圏共生ビジョンの策定スケジュールについて<事前資料> (説明：半沢主事) 会長) 今ほどの説明に加え、連絡調整会議での調整経過、私たち懇談会からの意見に対する対応状況等を補足できるか？

事務局) その点については、議事3と併せてご説明させていただきたい。

(3) 定住自立圏共生ビジョン案について<事前資料> (説明：半沢主事) 委員) 人口減少が課題となっているが、外国人観光客や国際結婚は増えている。定住している外国人の人数を人口データとして掲載できないか？今後の推移を見てみたい。定住人口が増えていけば、知識や知恵など文化交流を進めていく必要もあると思う。データがあれば掲載を検討してほしい。

会長) インバウンド観光というより、外国人の定住という観点だが、事務局はどうか？

事務局) 外国人の人口だが、新潟県内で南魚沼市が一番多い状況。(資料2のP.36、37では、外国人の転入・転出数が掲載されているが) 外国人の人口割合が掲載できるか各市町担当者と検討したい。

委員) 資料2のP.43 地域医療連携推進事業について、各市町で医師会が分かれていると思うが、医師会間における意見の整合性は図れるだろうか。また、2市1町職員同士の会議などはあるが、より効果を挙げるためには職員の相互派遣があった方がよいと思うがどうか？

事務局) 委員の言うように医師会については難しい部分があると思う。南魚沼市では、特別養護老人ホーム関係との職員交流は行っているが、それ以外の職員交流は進んでいない。一般行政職員の交流も必要と考えている。

委員) 以前、魚沼の医師会に関わっていたことがあり、医師会は異質な世界と感じた。意見交換し、お互い仲良くすることは大変なことであり、医師会を立てた中で進めていかないと、難しいと感じている。また、職員同士の交流が進めば、連携事業も進むと期待している。

会長) 以前、東京の企業で勤めていた経験がある。この地域とは違う良さ、お互いの良い面が分かった。社員育成の面でも、自社企業だけでなく効果があると思う。自社以外で2年ほど経験すると、技術力以外に感覚の違いなども顕著に見られる。市役所職員の派遣は難しいかもしれないが、十日町市、長岡市など近隣市町村に派遣する機会があれば、柔軟な発想も生まれ、面白いと思う。

事務局) 南魚沼市では、市役所職員を新潟県後期高齢者医療広域連合に派遣しており、市役所

職員と県職員の相互派遣も実施している。この圏域全体の問題として考えていきたい。

委員) 地域医療連携推進事業について、医療関係だけではなく健康維持の取り組みを入れられないか? 各市町で健康診断を実施していると思うが、人間ドックを受けられる場所が限られて不便ではないか。各市町においても、ウォーキングや健康体操などをすでに実施していると思うが、交流人口を増やすという意味でもワーキンググループで検討できないか?

事務局) 具体的には記載していないが、福祉のワーキンググループでそれらを含めて検討している。南魚沼市は、ゆきぐに大和病院健友館があるので、相互利用できるか検討を進めたい。

会長) 資料5で、連絡調整会議の方針として丸印が付いている事業が策定初年度に取り組む事業だと思うが、広域スポーツ大会の誘致は難しいか?

事務局) 策定初年度に取り組むことは予定していないが、南魚沼市では、スキー・スノーボード用のモンスターパイプを石打丸山スキー場に設置し、トランポリン、スケートボードパーク、スキージャンプ場などを活用した選手の育成強化を進めるといった事業に取り組んでいるので、国際レベルの施設を拠点にし、大会の誘致を含め、選手の人材育成につながるよう検討を進めていく。

会長) この地域でも、登山、マラソン、自転車、ウォーキングなどの広域スポーツ大会を実施しているが、ほぼ民間が主導となって立ち上げている状況。安定した運営を継続していくためにも、行政が一つの事務局を持って旗振り役を設けることで、広域的なスポーツ大会の誘致につながるのではないか。民間で主導する場合、一度大会をやめてしまうと、それ以降継続できずに途絶えてしまう危険性もある。地域住民からボランティアを募って体制を整え、観光協会も含めた中で事務局体制の検討を進めてほしい。

委員) 資料5で、事業概要は出ているが連絡調整会議方針に丸印がない事業は、いつか取り組むことができると考えてよいか?

事務局) 策定初年度に取り組む15事業は、ビジョン策定期間の5年間で道筋が立つと想定される事業を主に選定した。ワーキンググループの進捗度合や各市町間の調整により確約はできないが、具体化できるように2市1町ワーキンググループで検討を進めていきたい。

委員) 資料5で、福祉、子育てのワーキンググループをみると、事業概要が検討中となっている。具体策が見えないが、何かしら進めてほしいと思う。できれば、何を現在検討しているのか分かるようにしてもらえるとありがたい。

委員) 資料2で記載している地域資源の基準は何か? 共生ビジョンは、医療、教育に重点を置いていると考えられるので、魚沼基幹病院、北里保健衛生専門学院などの医療、教育機関、

グローバル IT パーク南魚沼構想なども地域資源として入れるべきではないか？

事務局) 共生ビジョンの地域資源の考え方として、自然、文化、特産品などを「雪国観光圏整備計画書」から抜粋している。ご意見のように、ハード施設を掲載することもできるため、懇談会の中で方針をご議論いただきたい。

委員) 資料5の連絡調整会議方針に丸印がある事業とない事業があるが、共生ビジョンの大目標に向かって進むべきはずが、図書館、スポーツ施設、文化施設などの相互利用に終始している。公の施設の相互利用は、この共生ビジョンで掲げてやらなくても、それぞれの機能を充実させるといった意味で、各市町で進めてよいのではないか？共生ビジョンでは、小・中・高といった教育の質を高めていくための取り組みを進めていくべきだと思う。公の施設の機能を高めることは大切だが、共生ビジョンの趣旨を考えると少し違うように感じる。

事務局) 公の施設については、集客数などを増加させるために、地域性を活かした独自の取り組みをしていく必要がある。公民館講座の相互利用で、この圏域で魅力ある講座の実施を検討していきたいと考えている。

会長) 共生ビジョンの中で連携して婚活支援事業には取り組むのに、定住自立圏へのUIJターン就職促進に取り組むことは難しいのか？婚活とUIJターン促進は表裏一体ではないか。確かに婚姻数は減っており、一人の方が楽という考えもあるが、若者が減ったこと、この地域に若者が定住しないことの2つの要因があることが背景にある。第1回懇談会でも話をしたが、ハローワークで実施する企業PRから分かることは、南魚沼市内では毎年約1,000人の高校生が卒業するが、地元で就職するのは300人、残りの700人の多くは市外に進学する。そのうちUターンするのは南魚沼市と湯沢町あわせて350人程度で、残りの350人が全員Uターンするかというと半分程度。1,000人中、250人が就職。500名しか地域に残らない。これがこの地域の現実であり、特にUターン就職促進を差し置いて、婚活支援事業に取り組むのはチグハグのような気がする。

具体的な事業として何をやるかという点だが、先日、7月18日に南魚沼市兼続公祭りに合わせて、六日町大橋下河川敷で南魚沼企業フェスタを開催した。建設、工事、介護、福祉、旅館といった幅広い業種の仕事を、南魚沼郡市の小・中学生に職業体験をさせるイベントで約2,000名が参加した。新聞記事になり、新潟市、柏崎市など各自治体から20件以上も問合せがある。この地域に就職者を増やすという点から、この地域に仕事があることを中学生のうちから子どもに分からせる。この仕事に就きたいからこの大学に進学したいといった一つの指標を示すこともできる。すでに雪国青年会議所で実績があるので、来年は湯沢町のお祭りに合わせてやる。次回は魚沼市のお祭りに合わせてやるといったこともできる。ハローワーク主催の単なるデスクでやる就職ガイダンスは、高校生向けにやればよい。例えるなら、東京のキッズニアの職業体験だが、実際にこの地域の仕事を体験できる企業フェスタの方がより効果があると感じる。これを2市1町で連携して実施することで、5年後、就職率が上がることにもつながるのではないか。今回、参加企業から協力していただき開催できた。来

年度の間合せがすでにあり、ビジョンの趣旨を伝えれば企業協賛のみでできるはず。

委員) 資料5で、木質バイオマス発電事業には取り組むのに、ペレットストーブなどの木質バイオマス利用促進事業に取り組むことは難しいのか？どちらも森林の管理に有効と思う。また、薪ストーブもあるが、薪割りが大変と聞くため、ペレットの方が利用しやすいと思う。

事務局) 木質バイオマス利用促進事業については、各市町で実施している補助金の額が異なっている点を統一できないかという部分を主に検討しているが、これまでの補助分との折り合いが難しい部分もある。各市町で進めていないわけではないので、ご理解いただきたい。

委員) 全体を通して感じるが、魚沼地域定住自立圏共生ビジョンというのに、行政と一緒に何ができるのかという感じしかなく、その先の将来が見えない。人口減少をどうするのか。働く場をどうするのか。それらを探って、今のうちから方針を示していくことが大切ではないか。施設の相互利用という足元の話ではなく、その先にあるビジョンが見えるようにしたいし、するべきだと強く思う。

事務局) 基本構想・基本計画に該当する第1章、第2章、第3章は、資料2のP.42まで記載をしているとおりが、意見の趣旨が伝わるような表現方法を検討したいと思う。

委員) 事務局が説明するように、将来像の部分に示されているが、具体的な取り組みが見えてこない。共生ビジョン策定初年度であるため、理解はできるが、多少なりともこの5年間で、ワーキンググループを通して将来像が見えるような検討をするよう進めるべき。

事務局) ワーキンググループで深掘りをして進めていきたい。

会長) 行政も忙しい中で資料を作成しているのは分かるが、資料をみたときに住んでみたくなる、ワクワクするまちのイメージが必要ではないか。行政はしがらみも多くあり、国の定めた方針の中で文章化しなければならず、制約もあることも分かるので、この懇談会の中からワクワク感を盛り込みたい。第1回目の懇談会でも話したが、浦佐駅シェアオフィス化をJRにプレゼンした。これは夢物語かもしれないが、ワクワクしてこないか？南魚沼版 CGRC 構想などいろいろな構想が膨らむ。地方創生として、JRも巻き込んで一緒に進めていければいい。我々の意見に対して、行政も動かないわけではない。是非、この懇談会の中から具体的な意見をいただきたい。

委員) 将来像のスローガンとして「魚沼地域に住みたい、住み続けたい」とあるが、これで人口増が期待できるのか？これは希望に過ぎない。具体的とまでは言わないが、何かが目に見えるようなスローガンがいい。連絡調整会議で決めたとするが、見直しはできるのか？

事務局) 懇談会の中で何か具体的な表現があれば各市町で検討したいと思うが、どうか？

会長) 例えば、プレゼン用の資料でもできる表現とできない表現もある。行政ではしがらみもあり、限度もあると思うので、委員からご意見をいただきたい。

委員) 自然、四季、この地域はとにかく四季がはっきりしている。例えば、四季を楽しみながら、住み続ける魚沼地域のようなイメージはどうか。楽しくないと住み続けられない。

会長) これを踏まえて、よい表現やイメージがあれば事務局で検討してほしい。

副会長) 公の施設の相互利用について、「南魚沼地域市町村圏域構成市町の公の施設の相互利用に関する協定」があるが、利用料の減免や免除がすでに結ばれており、それを魚沼市に拡大するという理解でよいか。それに関連して、施設の相互利用となると、住んでいる人はもちろん、訪れる人にとって考えた場合、指定管理施設もあると思うが、どこまでを文化施設としてとらえているのか。また、将来像の中にもあるが、住んでいる人が住みやすくなる取り組みが定住自立圏であり、これからは外貨の獲得、交流人口の増加を目指すことが大切。観光という観点で圏域観光情報窓口事業が挙げられているが、受け入れ体制の充実以外に、いかにこの地域に来てもらうかといったプロモーション戦略も併せて検討してほしい。移住・定住にもつながる部分でもあるため、観光と併せて2市1町で検討を進めてほしい。

事務局) 公の施設の相互利用として、今結ばれている協定に加えるか、新しい協定を結ぶか検討しているが、いずれも条例改正などが必要になる。文化施設の相互利用としてメインで考えているのは、公民館施設の相互利用。例えば、南魚沼市民が会議を開催する場合、魚沼市で開催する。新幹線の立地を活かして、湯沢町の施設を利用する。そういった相互利用を進めるもの。また、最近の観光の動きとして、雪国観光圏、日本版DMOに取り組んでいるが、この中部地域には観光周遊ルートがない中、沿線に点々とある観光地を面で結ぼうといった動きもある。この地域では、雪国観光圏をメインにルートを決めているため、ワーキンググループを通して検討していきたいと考えている。

委員) 人口を増やすことが最終目的だと思う。実現可能か分からないが、資料5のUIJターン就職促進事業について、パンフレットやウェブサイトによる情報発信はどこの市町村でもやっていて、この地域を見つけだすこと自体が困難になっている。一度この地域に興味を持った人がお試し移住ができる仕組みが大切ではないか。この地域では雪が大きく影響するため、買い物をするなど一週間ほど暮らさないと生活が分からないと思う。その際、市内にある空き家の利用も考えられる。以前参加した新潟市団体主催のセミナーで、三条市の取り組みとして、空き家をリフォームした三条トライクというゲストハウスで利用者が増えていると聞いた。この地域にも空き家が多く存在するので、地域として取り込めば一つの地域ブランドになると思うので検討願いたい。

会長) 現状の取り組みとして、南魚沼版CCRC構想ではどうなっているか？

事務局) 南魚沼市で先行して CCRC 生涯活躍のまち構想を進めているが、全国をみると、移住先として空き家を利用している自治体もある。市内でも空き家の情報収集やお試し居住を進めているが、移住希望者のニーズが多様化しており、難しい状況。空き家の利活用については、市がリフォームした後、施設を運営する人が地域にいると事業として進むが、運営まですべて行政が取り組むことは難しい。また、不動産業者などから空き家の情報を集約すること自体難しい状況もある。この地域は似通ったところもある。広域として、定住自立圏の中でできることがないか模索していきたい。

事務局) 先ほど委員からも、P.2 地域資源の部分でご意見をいただいたが、どこまで盛り込むべきか懇談会の場でご議論いただけないか？

委員) 地域資源の特産品だが、魚沼産コシヒカリしかないのか。この時期であれば、八色スイカ、美雪ますなどもあり、盛り込んでもいいのでは？

会長) 特産品として、業者が特定されると難しいか？

事務局) 各市町でいろいろな特産品がある。各市町で統一した基準で掲載を検討したいと思う。

委員) 自然、文化に関する地域資源を掲載していることはわかった。ただ、定住自立圏として、医療、教育は大事な部分。P.6 以降、図書館の記載しかない。教育は図書館以外にもあるので、見せ方もあると思う。総括表、資料集などがあってもよいと思うので検討いただきたい。

事務局) P.6 以降はすべての施設の利用状況ではなく、連携事業を進める上で利用状況などを確認するため、一部分の概況を掲載している。第1回目の懇談会でお示した『中心市宣言書』の中に、一覧表として都市機能を列記している。この共生ビジョンの中でも、同様に掲載することでどうか？

会長) そのようなイメージでまとめてほしい。

委員) 木質バイオマス発電事業について、発電方式としてガス化とあるが、ペレットで利用を促進し、ペレットの残りを発電に回せば効率的ではないか？ガス化、ペレット化をバラバラに進めると効率が悪く採算性も上がらないので、検討してほしい。

会長) 基本的には2市1町ですでに進めている事業。ペレットの利用促進については、各市町で既に実施してきた経過もあり、過去の補助金と不公平感が生じることが検討課題という説明であった。

事務局) 事業概要のとおり、ガス化については採算性の観点から発電方式を見直す方針になっ

ている。ペレットなどバイオマスの利用促進についても、連携して取り組めるかどうか検討を進めていきたい。

会長) 廃棄物処理施設広域化事業について、数十億ほどの大事業になると思うが、共生ビジョンでは2市1町で建設することで効率化するという点が全面に出ている。ゴミ処理施設は、どうしてもあまりよい印象は受けないが、都会をみると排熱を利用したプールが併設されていたりもするため、イメージアップする要素が欲しい。例えば、この地域は冬場に子どもを遊ばせる場所がない。南魚沼市のジャスコにある子ども広場の一部は有料だが、非常に儲かっていると聞く。例えば、ゴミ処理施設の一角を、冬場に子どもが遊べる広場にしてはどうか。排熱利用、子育て、健康増進も絡めた複合施設を共通理念として2市1町で取り入れられるとよいと思う。

事務局) 現在、用地の選定を進めている段階。その後、環境アセスメント、用地買収が進む中で、地域住民と具体的に議論していくことになる。現在も部会があるが、事務レベルの中でも検討していきたいと考える。

委員) 婚活支援事業について、今までも各市町で独自にやっていたと思うが、事業スケジュールをみると、H28、29年度は調整、H30年から実施というのは遅すぎないか？今の若い世代がどうやって結婚相手を見つけているか定かでないが、イベントも一年に一回ではなく、工夫をそれぞれしないといけないと思う。新潟市の団体に議論している事業として、自己啓発部分を重視し、経験者がゲストスピーカーとして自身の体験談を話した後、パーティーをするセミナーで全6回シリーズを予定している。若い人たちは、出会いがないというより、自分自身に自信がない人もいると思うので、その支援や連続してセミナーを実施するような仕組みも検討してほしい。

事務局) 委員の意見のように、セミナーの回数を重ねるとカップル成立数が高くなる傾向にあると聞く。一般的な婚活パーティーがおよそ2割から3割のカップル成立率と言われているが、南魚沼市と湯沢町が共同して実施している婚活支援事業は、体験型の婚活として成立率が高い。これまでの実績を踏まえ、魚沼市との話し合いの中でシリーズ企画も進めたい。いいアイデアがあればご意見をいただきたい。

委員) 資料5 移住・定住・地域交流総合プロデューサー人材育成事業の検討内容は？

事務局) 例えば、移住者をコーディネートする移住コンシェルジュが考えられる。コンシェルジュを雇用するか、地域住民を育成するかは検討の余地があるが、移住者の総合的な案内役をこの圏域として進めていきたいというもの。UIJ ターン就職促進事業も現在検討中という状況であり、こちらと併せて検討を進めていきたい。

会長) 魚沼市役所が建て替えになると聞いたが、市役所機能のみを集めるのか、それ以外の機

関も集積させた総合的な庁舎になるのか？

事務局) 市役所機能は集積する予定だが、詳細は検討中。

会長) 各市町の庁舎も老朽化している状況にあり、建て替えの時期と思うが、すべての行政機能が集積する総合案内所になると利便性がとても高くなるので、総合案内という点で一つ検討してほしい。以上、定刻になった。この懇談会は、他の会議よりも活発に意見が出たと思う。事務局の中で意見の活用を検討した上で、次回、最終確認としたい。

【4】その他 (説明：片桐企画政策課長)

会長) 第3回懇談会だが、今日の会議でもかなりの意見が出たと思う。すべてとは言わないが少しでも多く反映してもらうことがこの懇談会としては期待するところだが、2週間後の開催ではタイトすぎないか？連絡調整会議の開催時期は決まっているか？

事務局) 連絡調整会議はこの会議に諮るための打合せ、意思決定会議は各市町の方針決定の場という位置づけであり、お盆明けにずらす方向で進めたい。

会長) 懇談会としてのやりがいにもつながる。8月下旬で調整してほしい。

事務局) 第1回、第2回とクローズドで議論を進めてきた。第3回は意見を集約する場になると思うが、第3回はどうか？

会長) 他の会議はオープンという形で進めているが、委員から意見が出づらと考え、クローズドで議論を進めさせていただいた。第3回はオープンとしてもよいだろうか？

一同) 了。

【5】閉会 (貝瀬副会長)

本日も大変多くの意見が出て、集約は大変かと思うが、できる限り良いビジョンになるよう事務局にはお願いしたい。

これにて第2回魚沼地域定住自立圏共生ビジョン懇談会を終了する。ありがとうございました。

(午後4時20分閉会)